

浄願寺だより

R8 夏 No.25

遠方にお住まいのご門徒さんから、定期的ににお寺近況を聞かせてほしい、とのご要望があり、このたび浄願寺だよりとしてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめてお知らせしようと思
います。夏冬二回発行を予定しています。

令和八年八月十八日発行

編集責任者

浄願寺住職 関秀法

諦めのススメ

七月二十八日、熊本地方で震度7の大きな地震がありました。十年前にも大地震を経験し、ようやく復興が一段落した今になって再度災難に見舞われ、現地の方々の悲嘆と心労はいかばかりかと思えます。

しかし、地震は決して他人ごとではありません。日本に暮らしている限り、どこにいても地震の心配からは逃れることはできません。日本列島の地下深くでは四つのプレートが複雑に重なり合い、また世界中の約9割の地震が発生するという環太平洋火山帯の上に私たちは住んでいるのです。地震の予知も日夜研究が進められているとはいえ、決して十分ではありません。私たちにできることと言えば、いつか来る大地震に備え、数日分の水や食料を準備しておくこと、家族

と避難場所などについて話し合っておくことぐらいでしょうか。

さて、仏教には、「諦める（あきらめる）」という言葉があります。私たちは「諦める」というと、希望を捨てることや、チャレンジすることをやめてしまうといった時に使いますが、仏教のもともとの「諦める」という言葉の意味は少し違っています。

「諦める」は「あきらめる」とは「あきらかにきわめる」という事です。自分の力ではどうすることも出来ないことを見極め、余分な心配を避け、いま自分に出来ることに精一杯力を注ぐ、という意味だといえます。

先ほどの地震の話で言えば、日本に住んでいる限り、地震は避けることができません。ましてや自分の所にだけ地震が起きないよ

うになどと神仏に願うことはナンセンスです。

避けられないことは避けられないと、まずはつきりと見極め、地震が必ず起きるという事を前提にして、それに対してどんな準備が出来るのかを考えることが本来の「諦める」ということなのです。

私たち一人一人の人生に目を向けるとどうでしょうか。

お釈迦さまは、「この世に生を受けた者は、どうあがいても生老病死・死は避けられない。その事実をしつかりと見つめよ」とおっしゃいました。私たちが、老いや病や死に出会っていく確率は百パーセントです。どんなに健康に気を付けて生きた人も、早い遅いはあるかも知れませんが、私たちは、必ず老い、病を受け、やがて死を迎えねばなりません。お釈迦さまの覚りとは、まさにそのことを知ること

でした。ただ言葉の上で知るのはありません。本当に、他でもない、この私が、老いを、病を、死を避ける道はどこにもないのだと骨身にしみて知ることが、お釈迦さまの覚りであり、「諦め」だということです。

しかし同時に、お釈迦さまは、生老病死を諦めるところから、いかに力強い人生が立ち上がるのか、ということもまた教えてくださいました。それは、老いを憂い、病を恐れ、死を遠ざけながら、自分を偽り生きる生き方との決別です。私たちは老いの中にも、病の中にも、いただいている今を喜び、いま為すべきことは何かを明らかに見極める生き方が誰にもひらかれていることをお説きになったのです。

八月十四日住職法話より

サトリカフェ

先日、福知山のある企画会社のご依頼で、「サトリカフェ」なるものに参加してきました。

これは普段あまりお寺や仏教にながりのない方や、仏教に興味はあるけれど、お寺は敷居が高いなあと感じておられる方に、あえてお寺ではなく、街なかにあるカフェで気楽にお坊さんと話してみよう、という企画で、お坊さん役を頼まれ、お受けすることになりました。お葬式や法事以外で、わざわざ坊さんと話したいという人が居るのかな、と思っていましたが、募集の仕方が上手なのか、すぐに定員一杯になりました。

集まられたのは女性ばかり七人、四十代の方が多いようでした。お坊さんにはちよつと不似合いなおしゃれなカフェで紅茶をいただきながら、まず、ご参加の皆さんのお話をいろいろ聞かせていただきました。それぞれに、お仕事の悩み、子育ての悩み、介護や終活などを通して、より心豊かに生きる道を模索しておられるようでした。

私は、「てばなす」ということをテーマに、仏教のものの見方、心に苦し

が生まれる仕組み、またその対処法などについて、冗談を言ったり、雑談をしながらお話しました。皆さんが時おりメモをとりながら、一生懸命に聞いてくださっていたのが印象的でした。

子育てが少し落ち着き、親の老いを目の当たりにし、また自分自身の将来の姿をリアルに想像しはじめるのが四、五十代でしょう。旧来のお寺の組織では、この年代の方々、特に女性にはなかなか接点が持てずにいきましたが、ひよつとしたら仏教の教えを一番必要とし、また自然に聞き入れることができるのが、この年代の方々なのかも知れません。浄願寺の中でも似たような気軽なお話会が出来ないものか、考えたいと思います。

ありがたいことに初回の「サトリカフェ」は好評だったらしく、近々第二回が開かれるそうです。またどこかのカフェで見かけたらお声がけください。思いがけないサトリがえられるかもしれません。



お寺の掲示板

生きるからには
行けることまで
精一杯
誰に遠慮が
いるものか

門徒の広場は
WEB版では
ご覧いただけません

みお

編集後記

長年に渡って浄願寺の永代経のご法話をいただいた、高槻市信楽寺前住職、奇山明憲先生が、去る七月三十一日、お浄土にお還りになりました。七十一才でした。先生には平成十七年から、およそ二十年に渡り、永代経の講師をお受けいただき、あたたかな笑いつづまれたお話の中に、大切なお念仏のみ教えを丁寧に分かりやすく説いてくださいました。ご自身のご病気や、奥様との死別を通して、私たち誰もが必ず出会う行かねばならない苦悩の中で、お念仏がいかに光りかがやくかというのを身をもって教えてくださいました。先生のおかげで、浄願寺の永代経はいつも満堂でした。教えていただいたことは決して忘れません。

浄土真宗本願寺派
笹尾山 浄願寺

〒620-0925

福知山市上篠尾725

電話 0773-22-5280

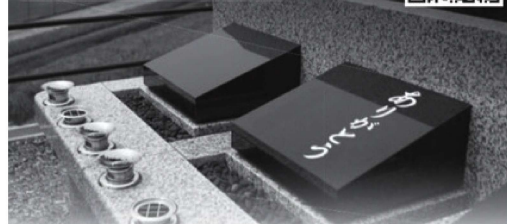
Email: jyouganjiweb@gmail.com

http://www.jyouganji.com

住職 関 秀法

ふるさとの杜 墓苑
永代供養墓

furusatonomori-boen.com



変わゆく形 変わらない心

笹尾山 浄願寺 福知山市上篠尾725

☎ 0773-22-5280 新区画が完成しました